

むすんで ひらいて

第44号

発行日
令和2年3月

発行：福井市地区社協連絡協議会
〒910-0018 福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ1階
(社会福祉法人 福井市社会福祉協議会内)
TEL 0776-26-1853 FAX 0776-26-9109

◆福井市社協のホームページからバック
ナンバーをご覧ください



連絡会を開催しました

テーマ 「顔の見える関係づくり」

令和2年1月15日(水)、福井県
県民ホールにて各地区社協役員等
約140名が参加し、福井市地区社

協連絡協議会1月連絡会を開催しま
した。



高村 安居地

今回は、「顔の見える関係づくり」というテーマで、安居地区社協事務局の高村さんより安居地区内での取り組みを紹介していただきました。

急激な高齢化が進む安居地区では、地区社協が中心となり、自治会型デイホームでもよろず茶屋でもない新しい住民同士の交流の場としての「安居カフェ」と、ボランティア

などによる雪かきやゴミ出しなどの支え合い活動「あんねつとサポーター」の取り組みを始めました。これらは、困ったときに「助けて」と言える関係を作るための第一歩として町内の人の顔と名前を覚えること、集まってきた人たちの中から新しい担い手を発掘することなどを



目的としています。

また、市社協から、ショッピングシティ・ベル内で実施している、だれでも集えるサロン「オープンサロン」ふらっと「ベル」についての紹介がありました。

普段から顔の見える関係を作っておくことで、困ったときに声を上げることができ、地域で助け合うことができます。いつまでも住み慣れた地域で暮らすことができます。各地区の困りごとやニーズに応じて地区独自の取り組みが増えていくといいですね。

その後の年賀会では、各地区同士の交流がにぎやかに行われ、さらに「顔の見える関係」をつくることができました。

鶉・宮ノ下地区社協が鶉小学校
4年生を対象に取り組んでいる
「子ども福祉委員」活動について
ご紹介します！

鶉・宮ノ下地区社協が地域で取り組む福祉“共”育



取り組んだきっかけ

地域の中で地区社協や福祉委員など、地域福祉に関わる人のことを幅広い世代に知ってもらいたいという思いがありました。そこで、小学校や市社協など、様々な関係機関と相談し、今年度初めて小学校での総合的な学習の時間を活用し、子ども福祉委員活動に取り組みました。

子ども福祉委員とは？

活動内容

福祉についての講義・体験学習や、高齢者福祉施設、地域の高齢者宅の訪問 小西会長(宮ノ下)と清川会長(鶉)などを地域の大人と一緒にいき、子どもたちが主体となって地域福祉活動に参加する。

目的

- ①子どもたちに地域の見守り活動に参加してもらうことで、地域のお年寄りの存在や大切さを知ってもらう。
- ②地域の幅広い世代の人たちに「福祉」への関心を持ってもらう。

地域の協力者

鶉・宮ノ下地区社協、民生委員児童委員、福祉委員、鶉小学校、高齢者福祉施設「宝珠苑」、保護者、地域の高齢者



子ども福祉委員活動の流れ

10月3日 **任命式、福祉についての講話（授業の一環）**
鶉小学校4年生38人に福祉委員任命状を交付しました。
市社協職員による福祉についての説明を受けました。



11月1日 **事前学習（授業の一環）**
市社協職員より高齢者の身体の変化についての説明を受けました。

11月14日 **高齢者疑似体験、車いす体験（授業の一環）**
おもりやゴーグルをつけて、歩行のサポートや階段昇降、折り紙を折るなど、子どもたちと高齢者との違いを体験しました。また、車いすの介助方法も学びました。



11月26日 **校区内の高齢者福祉施設訪問（授業の一環）**
校区内の高齢者福祉施設を訪問し、合唱を披露しました。そのあと高齢者と一緒に折り紙をしたり肩たたきをしたりと楽しく交流しました。

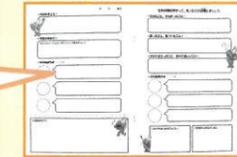


12月24日～27日 **近所の高齢者宅訪問（地区社協既存事業の一部）**
民生委員児童委員や福祉委員、地区社協の方と一緒に高齢者宅を訪問し、メッセージカードと使い捨てカイロを渡して声かけしました。



1月 **活動内容のまとめ**
福祉新聞を作成しました。
学んだことを後輩へバトンタッチしていきます。

子ども福祉委員として任命された子どもたちは、「子ども福祉委員活動ノート」に学んだことや感想などを書き込み、そこに保護者や地域の方からもコメントをいただくことで、子どもたちの活動を共有することができました。



「福祉やお年寄りについてもっと知りたい」「お年寄りや車いすの人に会ったら声をかけたい」

地域の方の声

「子どもたちに刺激された」「福祉を見直すきっかけとなった」

子どもたちの声

保護者の声

「福祉について知るきっかけとなった」

子ども福祉委員

子ども福祉委員バッジ

子どもたちの活動を通して多くの方が福祉について考えるきっかけとなったようです。各地区でも子どもたちと一緒に福祉“共”育に取り組んでみてはいかがでしょうか。

実施のポイント

- ★学校も地域も既存の事業がベースです。日程を組み合わせ「子ども福祉委員」の一年間のプログラムを組み立てます。
- ★経費も既存の事業がベースです。活動ノートやバッジは市社協からの提供があります。

目標設定型寄附金のお礼

今年度募集しておりました目標設定型寄附金は、下記のとおり目標を達成しました。たくさんのご協力ありがとうございました！

No1 **「見えにくさ体験グッズ」**
寄附合計額 65,900円
達成率 219.7% 260セット購入



No2 **「スカットボール」**
寄附合計額 184,510円
達成率 212.1% 2セット購入



湊地区社協 記念誌発刊！



湊地区社協が記念誌「平成30年間のあゆみ」を発刊されました。昭和50年の結成以来40年にわたる地区社協活動を振り返るとともに、これからの地域福祉活動のあり方についても分かりやすく書かれています。
各地区社協にも1冊ずつ配布します。

福祉委員スキルアップ研修会を開催しました！

令和元年9月8日(土)、福井県自治会館において市社協と共催で福井県立すこやかシルバー病院の高嶋康子看護部長による福祉委員スキルアップ研修会「認知症の人の暮らしを地域で見守る」を開催し、146名の福祉委員さんの参加がありました。

一言で認知症といっても様々な症状があることや、認知症は早期発見・早期対応で治る場合もあり、治らない場合でも進行を緩やかにすることができるという説明がありました。また、認知症の症状は、周囲の接し方次第で良くも悪くもなるので、接する時は「自尊心を傷つけない」「怒らない」「失敗しても責めない」「笑顔を忘れない」が重要だと教えていただきました。誰もが安心して暮らせる地域づくりのためにも認知症についての正しい知識を身につけたいですね。



越廼地区

福祉の充実と地域づくり

越廼地区社協は、平成の大合併で村社協から活動を引き継ぎ、今日に至っています。

人生100年時代、いつまでも生きがいを持って充実した生活を過ごすため、地域福祉の手厚い支援が求められています。

そこで当地区社協では、3つの柱で地域福祉を進めています。

1 ひきこもりや孤立を防ぐ事業では、高齢者の多くがデイホームやグラウンドゴルフに集い、健康増進と地域の活性化に努めています。

食事サービスは、地区独自に、75歳以上の二人暮らしや親子世帯にも提供し、見守り活動や安否確認も行っています。

一人暮らしの方には、温泉で日帰りの研修交流会を実施し、生活や健康不安等の相談にも対応しています。



世代間交流 救急救命AED体験

2 世代間交流事業では、児童クラブと民生委員、児童委員、福祉委員、老人クラブ

と保育園児が、防災やAEDの学習と昔遊びやパンづくりなどの体験で交流を深めています。

3 災害に備えた事業では、地区社協と特養「こしの渚苑」が相互応援協定を結んでいます。合同訓練では、リフト車を使って障がいのある方の避難や、避難者用のベッドメイキングを日赤奉仕団の協力で実施しています。

今後誰もが安全で安心できる住み良い地域づくりに邁進してまいります。

越廼地区社会福祉協議会



豪雨災害義援金贈呈 (福井市社協で)



(複合福祉拠点施設) 越廼地区社協事務所風景

酒生地区

ささやかな見守り活動!

田園が広がる酒生地区では、年々高齢化が進行し、交通の便も悪く気軽に買い物できるお店もなく、高齢者にとっては寂しいばかり...

「デイホームで「どこへも行かれんし、寂しきどもならん」「もっとでさんのか?」との声に、自治会の協力を得て「おより茶屋」が誕生しました。

月一回の開店日には「ありがとうのー」「私も来たわのー」といつもの笑顔が見られ、ほっと安心。

内容は何でもござれ。野菜作りの話・折り紙・脳トレゲーム・おやつ作りなど、おしゃべりに毎回満開の花が咲きます。町内の有志による歴史や酒生遺跡の話も大好評でした。三周年にみんなで手作りした看板も、毎回開店日にみんなをお迎えしています。

来ない人がいると「○○さん、今日忘れてるんかな」「娘さんと買い物に行っただぞ」などの声も聞かれ、みんなで見守りをしていることに気がされました。

道端で顔を合わせると「今度いつやったっけ」「うちのやつ、楽しみにしてるんや、明るくなつて喜んで



「との声もあり、スタッフがみんなの元気に励まされています。人と会って・しゃべって・笑って・楽しい時間を過ごす」

「私も行ってみたいか」と来店する方もいて、町内みんなでの見守りができていると感じています。できれば寂しがり屋の男性の来店があればもっと安心できるのかも、と思います。

酒生地区社会福祉協議会